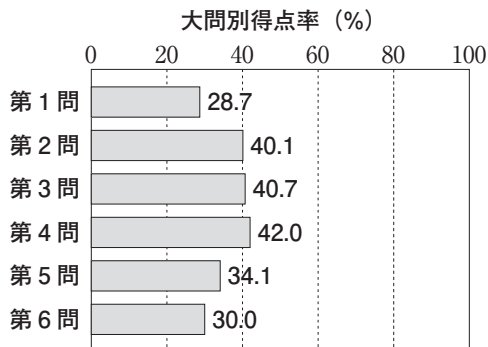
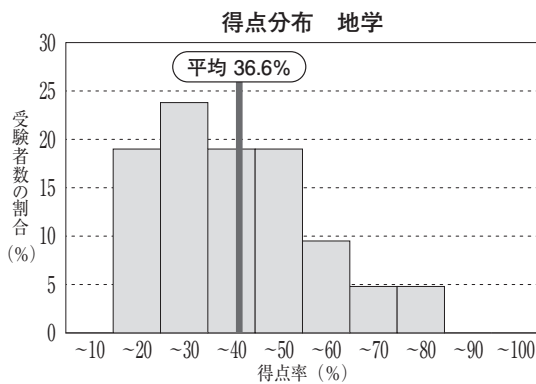


地 学

教科書の内容の完全理解を目指そう。

I. 全体講評

今回の得点分布は、次のようになっている。平均点は36.6点であった。2月時点では、まだ全範囲の学習を終えていないと思われるため、得点の低さを過度に心配する必要はない。学習済みの範囲で得点できていたかどうかを確認してほしい。なお、「地学」は「地学基礎」に比べて学習項目が多いが、教科書をしっかりと理解することで高得点を狙える科目である。着実に得点を伸ばしていくようにしよう。



II. 大問別分析

第1問 固体地球とその活動

知識を論理的に捉えよう。

Aではマントルと地殻の化学組成とその違いについての理解を確認した。数値を覚える必要はないが、地殻・マントル・核の主要元素は覚えておこう。

Bでは地球内部の熱の原因と地表近くでの観測についての総合的理解を確認した。解説のグラフを参照して、地球内部の温度分布を確認しておこう。また、教科書で密度分布や地震波速度分布もあわせて確認しておこう。

Cではプレート境界についての基礎的理解を確認した。拡大境界、収束境界、すれ違い境界それぞれについて、特徴をまとめておこう。

第2問 地質と岩石

図を描いて考えよう。

Aでは地層の走向・傾斜と地質図の作成についての総合的理解および地球の歴史についての理解を確認した。地質図に関する問題はセンター試験では頻出である。クリノメーターは実際に手に取ってその使い方を把握しておこう。断面図の描き方も練習しておこう。

Bでは化学的風化についての理解を確認した。造岩鉱物の化学的風化は火成岩の鉱物組合せやマグマの結晶分化作用の過程にも関連している。あわせて確認し理解しておこう。

第3問 大気と海洋

グラフや図の読み取りに慣れよう。

Aでは大気の大循環についての基礎的理解を確認した。解説の図を参考に、大気の大循環の様子や用語を確認しておこう。また、風の吹き方の仕組みを把握しておこう。

Bでは黒潮を題材に海流についての基礎的理解を確認した。環流や冷水渦の仕組みを正しく理解しておこう。

第4問 惑星と星団**計算力を付けよう。**

Aでは水星を題材に惑星の視運動についての基礎的理解と計算力を確認した。解説の図を参照して、内惑星と地球の位置関係を表す用語を理解しておこう。会合周期を求める計算は実際に練習しておこう。また、外惑星の視運動についてもまとめておこう。

Bでは散開星団についての知識と分光視差による距離の測定の理解と計算力を確認した。解説を参考に、散開星団と球状星団の違いを正しく把握しておこう。

第5問 地磁気と変成作用**地磁気や変成鉱物の知識を応用しよう。**

Aでは地磁気についての基礎的理解を確認した。問題図1にある地磁気の5つの要素は、用語とともにそれぞれ何を表すのかを理解しておこう。

Bでは接触変成作用についての基本的理解を確認した。解説の図にある Al_2SiO_5 の化学組成をもつ鉱物の温度・圧力条件は頻出である。この図の読みとり方を理解しておこう。

第6問 熱帯低気圧・大気と海洋の相互作用**知識を基に仕組みを理解しよう。**

Aでは熱帯低気圧の発生と風の吹き方についての基礎的理解を確認した。北半球と南半球の風の吹き方の違いを確認しておこう。

Bでは大気と海洋の相互作用について総合的理解を確認した。エルニーニョ現象とラニーニャ現象は、対比しながら特徴をまとめておこう。

なお、第5・6問は選択問題になっている。両問題をざっと見比べた上で、学習の進捗状況などに合わせて取り組みやすい方を選択すればよい。

Ⅲ. 学習アドバイス**◆センター試験の地学について。**

センター試験の出題範囲は教科書に限られている。センター試験で高得点を得るためには、「教科書」→「問題演習」→「教科書」という流れの学習方法を徹底し、教科書を徹底理解することが大切である。そのために、教科書の通読から始めよう。はじめは、理解しようとか暗記しようとか考えず、地

学の内容を概観することが大切である。地学は地球物理、プレートテクトニクス、岩石・鉱物、地質・地史、気象、天文、自然環境と範囲が多岐にわたっている。これらについてどんなことを学ぶのか、どのような図表やグラフがあるのか、大体のイメージを最初に作っておくことがその後の学習に役立つ。

◆これからの学習について。

学習にあたって最も大事なことは、地学は暗記科目ではないということである。

教科書を通読したら、今度はできるだけ丁寧に教科書を読んでいこう。このときに大事なことは地学の各分野それぞれの論理の展開を把握することである。どのような観測や観察、実験がされて、そこからどのような考察がされているのかを理解しよう。そのために、図・表・グラフを正確に読む力をつけていこう。教科書の図やグラフはセンター試験に繰り返し出題されている。図やグラフを正確に読むためには、それを自分でノートに描いてみるのが大切である。また、教科書を読むときは用語を暗記しようとするのではなく、その用語がどのように使われているのか、その論理の道筋を理解するようにしよう。また、各分野がそれぞれに関連しあっていることも多い。どのように関連しているかに注意して学習を進めよう。

◆模試を活用しよう。

「地学」にはセンター試験の過去問が3年分しかなく、演習量が不足しがちである。そのため、模試を演習の一環として学習を進めていくことが重要となる。2か月ごとに実施される東進のセンター試験本番レベル模試は、全国統一高校生テストも含め年6回で「地学」の出題範囲をすべてカバーするため、学習の進み方と学習の不足点を判定できるよい機会である。今後も模試の受験を継続し、着実に得点を伸ばしていこう。